

公開講演会

# 幕末期のオランダ対日外交政策

**日時** 2018年 **1月20日(土)** 14:00～18:00

**会場** 戸山キャンパス **39号館6階第7会議室**

**講演者** **小暮 実徳** (天理大学准教授)

1969年生まれ。明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程を経て、2008年にライデン大学にて博士号取得。著書に『幕末期のオランダ対日外交政策—「国家的名声と実益」への挑戦』(彩流社、2015年)、『東西海上交流の起源:オランダと海国日本の黎明』(彩流社、2017年)、訳書にL・A・ファン・デル・シェイス著『シェイスオランダ日本開国論』(雄松堂出版、2004年)がある。現在、天理大学准教授。

幕末期の日蘭関係については、これまで主に文化交流史の視点から研究されてきた。当時のヨーロッパにおけるオランダは、領土としては小国であるものの、蘭領東インド(現インドネシア)を植民地に持ち、欧米では唯一、日本と関係を持つ国でもあった。オランダにとって日本は、世界貿易国家としてのステータスを高め、植民地の市場としても期待できる存在だったのである。オランダ植民省は積極的対日外交を行っていたが、中立主義をとっていた外務省に移管されると、それまでの特別な日蘭関係は終わりを告げる。幕末日本を取り巻く国際関係を、オランダ・イギリス・インドネシア・アメリカの史料により、新たに描く。

◎ プログラム ◎

- 14:00～14:10 開会挨拶
- 14:10～15:40 講演「幕末期のオランダ対日外交政策」
- 15:40～16:00 休憩
- 16:00～18:00 討論

\* 司会: 谷口眞子(早稲田大学文学学術院)

主催・問合せ



**WIAS** 早稲田大学高等研究所  
Waseda Institute for Advanced Study

入場無料・事前申込不要 直接会場にお越しください。